

平成 31 年 3 月 19 日参議院文教科学委員会議事録

○松沢成文君 維新・希望の松沢成文でございます。

〔委員長退席、理事江島潔君着席〕

今日は、大臣所信の中にもありましたが、オリンピック・パラリンピックの成功に向けて質問していきたいと思います。

大臣も、オリパラの成功を一つの契機としてスポーツ立国の実現を目指すというふうに述べておられました。ただ、私の目から今の準備状況やあるいは招致委員会の疑惑等々を見ても、このままオリンピックが成功して、いいレガシーを残せるのか大変心配になっております。

そこで、今、招致委員会の疑惑が国際司法問題にも発展しておりますけれども、まず第一点目に伺いますが、二〇二〇年の東京オリンピック招致活動の主務官庁、もちろんこれ、都市ですから東京都が招致の中心になるわけですが、国政における主務官庁は文科省だったということによろしいのか、また、スポーツ行政をつかさどる文科省として、東京オリンピックに向けて J O C と連携協力する体制であるという方向によろしいのか、二つお伺いします。

○国務大臣（柴山昌彦君） 主務官庁という正確な定義はちょっと判然としない部分はありますけれども、オリンピックを始めとする国際スポーツ競技大会の招致について政府部内で担当するのは、おっしゃるとおり文部科学省であります。

また、スポーツ行政を担当する文部科学省として、東京大会の成功に向けて J O C と連携協力をしているところであります。

○松沢成文君 さて、今日、先ほど、我が委員会の橋本委員も実は J O C の副会長なんですね。ですから、今日三時から J O C 総会をやっておりまして、そちらに行かれたんだというふうに思います。

今日のJOCの総会じゃない、理事会ですね、の最大のテーマは、会長であります竹田さんが辞意を表明するのではないかと、こういうふうに報道をされております。その最大の理由は、東京五輪招致の招致委員会の、こちらは理事長なんですね、理事長として、今、招致委員会がコンサル会社に支払った二千三百億円がIOC委員の票の買収や賄賂に使われたのではないかという疑惑を掛けられていて、竹田当時の理事長、JOC会長は全くそんなことはないかと否定はしておりますけれども、それが国際司法の場でも追及されていると、こういうことなんですね。

私も、竹田会長はまさかそんなことをするような人じゃないよなと思っておりますけれども、これ深く調査をしていきますとかなり怪しいところが出てくるんですね。

まず、こういう状況を招いていることに文科大臣はどういう認識、感想をお持ちでしょうか。

○国務大臣（柴山昌彦君） 本件に関しては、JOCの竹田会長から、フランスの担当判事からヒアリングを受けたけれども、不正なことは何も行っていないと説明したという内容のコメントが出されていると承知をしております。

今回の一連の動きは、フランスの予審手続に関する報道に端を発するものでありまして、二〇一六年九月にJOC調査チームの報告書が発表された後に日本国内で新たな事実等が判明したわけではないと認識しておりますので、まずフランス当局の動向などを注視してまいりたいと考えております。

○松沢成文君 今年の一月十五日に、竹田会長、記者会見をしているんですね。それは、先ほどのように、フランスの司法当局、特に裁判所の予審審査が始まっていて、それで竹田会長も去年の十二月にフランスで事情聴取を受けたということが明るみに出て、それを受けての記者会見だったんですが、この記者会見が極めて評判が悪かったんですね。一方的に自分は潔白だということを話ただけで、急に記者を集めておいて記者からの質問は一切受けな

いで出ていってしまったと。これで果たして疑惑を掛けられている人としての説明責任を果たしているのかという厳しい批判が出ましたけれども、大臣はいかがお考えでしょうか。

〔理事江島潔君退席、委員長着席〕

○国務大臣（柴山昌彦君） 今回の記者会見については、先ほど申し上げたとおり、私自身見ではおりませんけれども、内容については当然報告を受けております。内容については、先ほど委員あるいは私の方からコメントしたとおりであります。

その上で、竹田会長においては疑念を払拭できるように説明責任を果たしていただく必要があると思いますけれども、その具体的な方法については御自身で判断されるべきものと考えております。

○松沢成文君 私は、この問題について二〇一六年にも質問をしています、この委員会で。それで、たしかこの委員会だったと思いますが、竹田 J O C 会長を参考人としてお招きしてお話も聞かせていただきました。

その後、J O C は、この疑惑を払拭するために調査チームをつくって自主調査をしたんですね。その後、三か月掛けてやって、八月三十一日に調査報告書を出しております。

大臣は、この調査報告書は読んでおられますか。それで、読んでおられるとしたらどう評価していますか。

○国務大臣（柴山昌彦君） 報告書の全文を読んではおりませんけれども、当然、概要については承知をしております。

弁護士等によって構成された調査チームが、海外調査や関係者三十名以上からのヒアリングなどの調査を行った上でまとめたものであり、問題となったコンサルタント契約について、我が国の国内法や I O C の倫理規程に違反するものではないと結論付けたと承知をしております。

○松沢成文君 まず、そもそも論として、こういう第三者による調査というのはいろいろ疑

惑があるとつくられるわけですね。最近では毎月勤労調査に対して第三者委員会がつくられました。

ただ、このメンバー見ている、まず、これ、JOC、疑惑を受けている竹田さんが会長をやっているJOCが任命しているんですね、メンバーを。そのメンバーは、まず、弁護士、公認会計士等で構成されていますが、その中にまたオブザーバーとして、当事者のJOCの常務理事、それからまた当事者の東京都職員も加わっちゃっているんですね。

そうした利害関係者が調査チームに参加しておりまして、これで第三者調査あるいは独立性、中立性が確保されている調査と言えるのでしょうか。私は大いに疑問なんですけど、大臣はいかがお考えでしょうか。

○国務大臣(柴山昌彦君) JOCの調査チームは、今お話があったように、外部の弁護士、公認会計士で構成をされており、また実際の調査においても、JOCではなくて法律事務所の職員が事務局を担当していたと伺っておりまして、一定程度の第三者性は担保されていたのではないかと認識しております。

○松沢成文君 それはともかくとして、この調査委員会というんですかね、調査委員会の調査報告書を見ると、法的にも問題ないし、正当なコンサル料としてちゃんとやっていただいたと、ある意味では全然問題ないんですよという結論の調査なんですけど、私は何度読んでみても問題だらけだと思っていますので、幾つか指摘して大臣の見解を伺いたいと思うんですね。

実は、東京五輪の疑惑というのは、招致委員会がシンガポールにあるブラック・タイディング社というコンサル会社に二億三千万円のコンサル料を払って、それでコンサルというかロビーイング活動をお願いしたわけですね、お願いしたわけです。この前の招致委員会で十一社ぐらいコンサル会社を使っているんですよ。その平均は約一億円です。ところが、このブラック・タイディング社だけは、一回、二回合わせると二億三千万使っているんですね。

それも、一回目、一億で、これ着手金です。そして、招致が終わって成功して、その後に成功報酬として一億三千万行っているわけですね。

で、ブラック・タイディング社というのは、私から見れば、電通や、あるいは国際陸上競技連盟のディアクさん、ディアクさんというのはアフリカのスポーツ界のボスでありまして、この方がいつも国際大会の招致ではアフリカ票をまとめるという、スポーツマンというか、ロビイストというか、こういう方なんですね。で、実はそれと全く同じパターンが、その四年前のオリンピックのリオの五輪のときにも行われているんです。

リオの五輪でも、ここはある企業を経由して、ブラック・タイディング社、BT社に、同じコンサル会社ですよ、そして約二億二千万というほぼ同じ金額が一回目、二回目と分けて契約されているんです。それで、このブラジルの方は、ブラジルの司法当局が動いて、実はブラジルのオリンピック委員会の会長であったカルロス・ズスマンさんというのが、この方が動いていたんですが、これは賄賂だと断定されて有罪判決を受けているんですね。全く同じパターンです、東京も。

これは、このBT社、ブラック・タイディング社を通じて、ラミン・ディアク、つまり国際陸連の会長ですね、この間をつないでいるのがパパマサッタ・ディアクという、ラミン・ディアクの息子さんですね。ですから、これどう見ても、状況証拠からすると、このブラジルで有罪となったパターンと全く同じやり方をして東京の招致活動もしているということで、これでは疑われても仕方がないのかなと思うんですが、この辺りいかがお考えでしょうか。

[○国務大臣（柴山昌彦君）](#) 御質問のリオデジャネイロ・オリンピック招致に係るブラジル連邦警察の捜査内容を把握しておりませんので、お答えは控えさせていただきたいと思えます。

[○松沢成文君](#) 次に、調査報告書では、この招致委員会の樋口事務局長さん、この方は元文

科省の官僚です、そこから招致委員会の事務局長に行って、今では明星大学の教授かな、先生をやっている、今は民間人になっている方ですけれども。実は、このブラック・タイディング社のタン・トン・ハン代表と電話で話して口頭合意して契約を決めたというんですね。会ったことないんです。普通、第一回目が一億円、成功報酬もほぼ約束して一億三千万、合わせて二億三千万のコンサル契約を一度も会わずに電話だけで普通決めますかね。常識じゃ考えられないんですよ。

こういう極めてずさんな、ずさんというか、やり方でこの契約が決まっていくなんだろうかと。相当これ急いでいたんですね。当然ですよ。その年の九月にはI O Cの総会があって、そこで投票があるわけですから、最後の票集めをやらなきゃいけないと。こういうことで、一度も会わずにコンサル契約を結ぶ。この点についても普通常識で考えられないと思いますけど、大臣、どうお考えですか。

○国務大臣（柴山昌彦君） 繰り返しになりますが、東京大会の招致に関する問題については、当時の招致委員会の主体となっていたJ O Cと東京都において説明責任を果たすべきものと考えております。

いずれにせよ、その後、国内、日本国内で新たな事実が判明したわけではありませんし、報告書の具体的な記載内容について私が改めてコメントすることは差し控えさせていただきますが、いずれにせよ、J O Cや当時の招致委員会の責任者であった竹田会長におかれて疑惑を払拭できるように説明責任を果たしていただきたいと思っております。

○松沢成文君 もう少し私がおかしいと思う点を進めていきますけれども、東京の招致委員会は電通と相談しているんですね。この電通というのは、今もうスポーツビジネスの分野でも巨大コンサルティング産業というか大変な企業として成長していますけれども、このB T社、ブラック・タイディング社と契約を結ぶ際に、招致委員会の事務局長は電通さんに相談して、この会社どんな会社でしょうかと、ちゃんとコンサル事業きちっとやってもらえます

でしょうかという相談をしているんですね。しかし、この内容について調査報告書じゃほとんど明らかになっていないんです。

調査報告書ではこう書いてあるんですね。ブラック・タイディング社は十分コンサル業務ができ、実績があるというふうに言って、事務局長は電通からのお墨付きも得たと、だから契約したんだというふうに言うんですけれども、一方、この疑惑が明るみに出て、電通はFNNというテレビ局の取材に対して、BT社代表のタンさんについて、これまでビジネス上の付き合いはない、こういう人なんじゃないでしょうかと知る範囲で伝えたと、こんないいかげんなことを言っているんですね。

ですから、招致委員会の方は、この分野のもう一大産業、電通さんに聞いたら、いいんじゃないか、実績もあるし、よし、行けと言われてやったんだけど、電通の方は、その後疑惑が上がるともう逃げの一手と、こういうことです。

私は、電通というとメディアの皆さんも怖がっちゃって報道しませんけれども、この電通がこのコンサルティング契約の裏にいたというのはかなり確実な情況証拠だと思いますけれども、大臣はいかがお考えでしょうか。まあ答えにくいですね。

○国務大臣（柴山昌彦君） おっしゃるとおり、繰り返しになりますけれども、この東京大会の招致に関する問題については、いずれにいたしましても、JOCと東京都においてしっかりと説明責任を果たすべきと考えますし、報告書の具体的な一つ一つの記載内容について私がコメントすることは差し控えたいと考えます。

○松沢成文君 それでは、もう少しちょっと一般論の質問をしますが、五輪招致におけるロビー活動というのはどういうものだと思いますか、どういうものだと考えますか。

○国務大臣（柴山昌彦君） 申し上げるまでもありませんけど、オリンピック開催都市の選定はIOCの総会で行われることとなっております。ですので、オリンピック招致におけるロビー活動とは、IOC総会において開催都市として支持してもらえよう、IOCの委員

各位へ働きかけを行うことであるというふうに定義付けられると思います。

○松沢成文君 I O Cの委員にいろんな情報を与えたりして働きかける、これがロビー活動ですが、I O Cの倫理規程にもありますように、それをやる時に一切金品を贈ったり受け取ったりしてはいけないと、贈収賄になるようなことは絶対に駄目だという厳しい規程があって、これを破ったら一度決まった招致も帳消しになりますよというぐらいに厳しい倫理規程があるんですよ。ですから、それを守らないと、どんなにこの招致に成功したって大変厳しい状況になります。

さあ、そこで、私はこの委員会でも以前から取り上げているんですが、電通の元専務で今では組織委員会の理事も務めている、このスポーツビジネスの世界では日本ではとても有名な方です、高橋治之さんという方がいて、この方が、実は週刊現代の取材で今回の招致問題を聞かれてこう答えているんですね。資金提供はどこの国だってやっていると、みんな国を挙げて買収作戦をやっていると、こう述べているんですね、堂々と。これ、週刊現代の取材にですよ。

それで、ファクタという雑誌があって、そこに実はイギリスの記者のオーウェン・ギブソンさんという方が、これは間接情報ですけども、こういうことを聞いているというんです。東京五輪招致が決定した一三年九月、アフリカ票を確保できたのは自分、高橋さんが言っているんですね、自分、高橋のおかげだと豪語していたと。もう自分で威張っちゃっているんですね。こういう雑誌の記事もあります。

それからもう一点、私も探してみたんですが、田崎健太さんという方が書かれた「電通とF I F A」、F I F Aというのはあの国際サッカー連盟のF I F Aですね、のインタビューの中で、ロビー活動について実は高橋さんがインタビュー形式ですから述べているんです。ロビー活動とは投票権を持っている人と食事をしたり贈物をあげたり、時にお金をデリバリーしているかもしれないと、しかし電通側としては一切タッチしていないと、I S Lに任せ

ていると、こういうふうに言っているんです。

この I S L というのは、簡単に言えばコンサル会社ですね。実は電通がつくったコンサル会社です。電通が直接やっちゃうと、これ完全に倫理規程に引っかかって、違反になって捕まっちゃう、贈収賄で捕まっちゃいますので、I S L というコンサル会社を通して、そこには食事をしたり物を贈ったりお金を贈ったりして徹底して一票を取ってくるんだと、それがロビー活動なんだと、正々堂々と主張されているんですね。

こういう方がいらっしゃるわけです、電通の中に。電通に相談してやったんですね。それはもう、電通はイアン・タンさんのブラック・タイディング社とがっちりつながっていますから。このブラック・タイディング社というのは、国際陸上連盟のディアク親子とがっちりつながっちゃっているんですね。

電通は国際陸上連盟の、何というか、コンサルやっていますから、もう完全にずぶずぶな関係で、この会社を使えと、うまく裏でロビー活動、すなわちお金も含めて、アフリカ票を最後必ず十票二十票を持ってきてイスタンブールに絶対勝つんだという作戦があったとしか私は思えないんですね。ただ、断定してはいけません、これから捜査が始まりますので。

さあ、この電通との関係を聞いてもなかなか、今と同じような答弁になると思うので、答弁はいいです。

次に、まだまだたくさんあるんですよ。

問題のこの B T 社のタン・ハン・トン社長からは、毎月毎月、招致委員会に活動報告書が送られていたんですね。今月はこういうロビー活動をしましたと。そうですね、それだけお金もらっているんですから。活動報告書が行っているんですね。その活動報告書を見れば、恐らく相当何をやっているかというのは判明できたと思うんですが、思うんですが、これを何と招致委員会の方は、恐らく、その樋口事務局長の判断なのか、理事長まで相談したか分かりませんが、これは秘匿性があるから廃棄しましたと言ったんですね。秘匿性があ

るから嚴重に管理するというなら分かりますけれども、秘匿性があることを理由に重要書類を廃棄してしまっていると、ここも私は極めて問題だと思います。

更に言うならば、二〇一六年五月十六日の衆議院の予算委員会で、B T社の活動報告書の所在について、これはどこが答弁したのか分からないんですけれども、政府の答弁は、関係書類は法人清算人で招致委元専務理事の水野正人さんが保管しているというふうに答弁したんです。しかし、この調査報告書では、関係書類は全て破棄されたと。いつの間にかに破棄されちゃっているんですね。

こういう最も重要な関係書類を全て破棄しているというのは、これはやっぱり証拠隠滅としか私は思えないんですけれども、大臣、どうでしょうか、この辺りは。

○国務大臣（柴山昌彦君） 今委員がおっしゃったとおり、秘匿性が求められたため破棄したという招致委員会の対応は不自然ではないかという御指摘は承りたいと思います。

ただ、当時の招致委員会の実務の状況を把握しておりませんので、それ以上のコメントは控えたいと思います。

○松沢成文君 この疑惑のやはり最大の問題は、このコンサル料が賄賂として使われていたかということと、竹田当時の招致委員会理事長や樋口事務局長、文科省のOBであります、こういう招致委員会の幹部がそのことを知っていたかという問題なんですね。これ、知っていたら、日本では国民の問題ですから贈収賄は成り立たないといって逃げられますけれども、もうこれ国際司法では、ブラジルに行ってもフランスに行ってもアウトですから、民間同士でも贈収賄成り立ちちゃいますのでこれ大変なことになると思うんですけれども。

この樋口事務局長を私はこの委員会に参考人で呼ぼうとしましたが、民間人であって多忙なので行けませんという答えでした。やっぱり竹田今のJOC会長を呼んでも、今これ捜査案件なので答弁は控えさせていただきますと絶対逃げるんですね。でも、これ樋口さんと呼ばばかなりのことが分かるんです。だって、コンサル契約を担当したのは樋口さんですから。

それも二億三千万のコンサル契約をタン代表と電話で一本で決めていった人ですからね。

是非とも、今後何らかの形でこの委員会に樋口当時の事務局長をお呼びしたいと思いますので、委員長、是非ともお願いしたいんですが。

○委員長（上野通子君） 後刻理事会で協議します。

○松沢成文君 さて、今大臣にも無理にいろいろ感想も含めて見解を伺いました。

この招致委員会が出した調査報告書は、実はこれ、最近、第三者委員会、第三者委員会と
いろんなどころでつくるので、弁護士会が第三者委員会の報告格付け委員会というのをつく
っているんです。この第三者委員会はまともな委員会かどうかというのを全部チェックしよ
うというんですね。チェックされているところたくさんありますよ。AからFの評価でやっ
ているんですね。そうしたら、これは八人の弁護士さんが、何とD評価六人、F評価二名で
すよ。惨たんたる結果です。こんなもの中立性のある第三者調査じゃないと言っているんで
すね。

その理由として、まず一つは、先ほども指摘した、調査チームにオブザーバーとしてJOC
理事などが加わって独立性がない、そのとおりですよ。それから、コンサル会社の代表
やIOC委員から調査の返答を得られていない、全く調べていないということです。それか
ら、コンサル会社の役割や電通の関与などが何も解明できていない。更に言えば、日本の法
律にとって民事上も刑事上も問題ないと周知するばかりで、全く、今国際司法の問題になっ
ているのに、その点についても逃げているばかりという厳しい指摘が並んで、第三者評価と
して完全に失格の烙印が押されているんです。

こうした調査報告書の格付け委員会の評価に対しては、大臣はいかがお考えでしょうか。

○国務大臣（柴山昌彦君） おっしゃるとおり大変厳しい御評価だとは思いますが、
今回のこのJOCの報告書におきましては、問題となったコンサルタント契約において、あ
くまでも我が国の国内法やIOCの倫理規程に違反するものではないという結論付け、そし

て、そのための調査だったのではないかというように承知をしております。

報告書の作成に当たりましては、弁護士等によって構成された調査チームが、先ほど申し上げたような事務局によって海外調査あるいは関係者三十名以上からのヒアリングの調査等を行った上でまとめたものと承知をしておりますし、また、この格付け委員会における評価においても、十分なヒアリングをBT社、タン氏、ラミン・ディアク氏、パパ・マッサタ・ディアク氏らに対して行うことができなかったということについては、もちろん調査不十分として低い評価をする委員もいらっしゃいましたけれども、任意調査の限界であって、低い評価はこの報告書ではできないのではないかとする委員とに分かれたというように伺っております。

○松沢成文君 この弁護士会の格付け委員会の意見を見ますと、やっぱり今回の調査チームの調査報告書は全く真相究明に迫っていないということです。電通がどう関与したか、これが本当にコンサル料だったのか賄賂につながっていったのか、パパ・マッサタ・ディアク氏が間に入ってどういう行動をしたのか、あるいは竹田理事長や幹部の人たちがどこまで情報を得ていたのか、あと契約の仕方にも問題があります。ですから、問題だらけなんですよ。

大臣、是非とも考えていただきたいのは、今厚生労働省の方でも毎月勤労統計の不正に対して、特別監察委員会が最初に行った、去年十二月に行った調査が第三者調査として問題があり、極めて不十分という批判を徹底して国会でも受けまして、それを受けて再調査したんですね。このJOC疑惑に対する調査というのも、もう今議論してきたように極めて不十分です。真相究明には全くなっていません。

このままにしておくと、これ、日本恥ずかしいんじゃないでしょうか。もう国際的な司法事案になっていますので、海外の司法当局もみんな詳しく調べているんですね。

ですから、私は、ここは招致活動の担当官庁であった文科省が文科省の責任でもう一度第

三者委員会をつくってきちっと調査する、真相究明に迫る、それで白だというのであれば正々堂々と世界にアピールできるわけでありまして、もしおかしいという部分があったらきちっと指摘する、それこそが私は疑惑を掛けられた国として、今後オリンピックを成功させるためにも必要な手段だと思うんですが、大臣、いかがでしょうか。

○国務大臣（柴山昌彦君） 先ほど来繰り返しておりますけれども、まず、招致委員会の主体となっていたJOCと東京都が説明責任を果たすべきものであるというように考えておりますし、また、先ほど来お話をさせていただいているとおり、これ、日本において処罰の対象となる疑いのある事実はないわけでありまして。

政府としては、その後新たな事実も判明していないということもありますので、引き続きフランス当局による司法手続などの動向を注視をするとともに、仮に今後何らかの対応が、例えば協力を求められるなど、必要となったときには適切に対処をしていきたいというように考えております。

○松沢成文君 現在、JOCでも理事会が行われていて、恐らく竹田会長は辞意を表明されているんだというふうに拝察いたします。

ただ、報道によれば、竹田会長はここで世間を混乱した責任を取って自分は辞めると、ただ、六月の任期まではやりたい、こういうふうになるようなんですね。大臣、それでいいんですかね。これは要するに、自分は悪くないと、白なんだと、でも、世間を騒がせたので辞めるんだということですよ。

ただ、問題なのは、竹田JOC会長は、IOCの委員でもあるんですね。もうオリンピックに向けてIOCの会合というのは頻繁に行われるんです。例えば、一月十九日、IOCのマーケティング委員会がスイス・ローザンヌで行われて、竹田JOC会長はこのマーケティング委員会の委員長だったのに欠席したんです。個人的な理由でとは言っていますが、欠席せざるを得なかったんですね。そして、三月二日、三日にはアジア・オリンピック評議会が

バンコクで行われました。これにも竹田会長は欠席せざるを得なかった。欠席したんですね。なぜだと思いませんか。それは、今国外に出てしまうと、またフランスの司法当局から身柄拘束を受けて捕まっちゃう可能性があるからなんです。外に出れないんですよ、竹田さん。

だから、もうこういう立場になっちゃった方は大変申し訳ないけれども即刻辞任をして、新しいJOC会長を選んで、その方にしっかりと活躍してもらわないと、日本の、何というか、オリンピック開催国としての日本の責任が果たせないんですよ。そう思いませんか、大臣。

是非とも竹田会長には、辞任の表明をして六月までやろう、そうすれば、自分はこの疑惑の責任を取って辞職したんじゃないくて、一応任期満了までやったんだという形を取りたいんですね。竹田さんのメンツを選ぶのか、それとも日本の国益、オリンピック開催国としての日本がしっかりと活動できるJOC会長を選ぶのか。私はこういう判断だと思うんですが、大臣、いかがでしょうか。

○国務大臣（柴山昌彦君） 御意見は分からないわけではありませんけれども、民間団体の役員人事については、それぞれの団体において決定されるべき事項でありますので、私のコメントは差し控えさせていただければと思います。

○松沢成文君 実は、スポーツ庁の鈴木長官もこのJOCの会長人事には結構悩んでおられて、スポーツ庁としては、スポーツ団体の長が余りにも長くやり過ぎることによって不祥事、腐敗につながっているから制限をしたいということもあって、それに竹田会長がどう引がかかるかというのがいろいろ議論になっていましたけど。

実は、このスポーツ庁長官の鈴木大地さん、長官も招致委員会の理事だったんですよ。そういう意味では多少の責任もあるわけですね、招致委員会としてこれだけの不祥事を起こしてしまったというのは。この辺りも、大臣、しっかりと認識をしていただきたいというふうに思います。

この問題の最後として、私はちょっと驚いたんですけども、今日、実はオリパラ担当大臣、お名前何ていいましたっけ。(発言する者あり) あっ、そう、済みません、あんなに有名なのに忘れちゃった。櫻田オリパラ担当大臣も今日ここにお越しいただいて、オリンピック全体の担当ですからお話、御意見聞こうと思ったんですが、今日は所管の所信を述べた大臣中心にやるということで、残念ながら来ていただけなかったんですけども。

この櫻田大臣が今回の招致委員会の不祥事についてメディアに問われて、また結構驚くべき発言しているんですね。これ、どういう発言かという、私ちょっとテークノートしていないので私が聞いた範囲で申し上げますけれども、私の所管ではない民間団体の件なのでコメントは差し控えさせていただきますと。これ、事実といえば事実なんでしょうけど、オリンピックを担当する大臣として何と無責任なコメントかなと思いました。櫻田大臣は、何かしゃべっても問題になりますけど、コメントをしなくても問題になりますよね、不思議な大臣ですけども。

といいますのは、やっぱりオリンピック全体を成功させるために総合調整するのがオリンピック担当大臣ですよ。確かに、自分は組織委員会以降の、オリンピックが決まってからどう成功させるかを担当するんだから、招致委員会は関係ないという言い方ですね。だから、一民間団体の不祥事に私はコメントする必要がない、そういうやっぱり無責任体質でいるから、私はオリンピックの準備がきちっと進んでいかないんじゃないかと思うんですよね。

この櫻田大臣の、私から言わせれば極めて無責任なコメントについては、大臣、文科大臣はどう感想を持ちますか。

○国務大臣(柴山昌彦君) 櫻田大臣がどのようなコメントをしたかということをつぶさには承知をしておりません。

ただ、確かに、民間団体だからといって全く知らぬ存ぜぬというわけではなくて、先ほど鈴木長官のお話も引いていただきましたけれども、我々は、そういうスポーツのガバナンス

のやはり規定の整備、特にガバナンスコード等を通じて、その運営がどうすれば適正に行われるのかということについては関心を持ち続けたいと、このように考えております。

○松沢成文君 大臣、かなり今日は厳しい無理筋な質問も幾つもしてしまいまして、でも真摯に答えていただきまして本当にありがとうございました。

私はあえて最後に申し上げますが、是非ともここにいる皆さんと一緒に東京オリンピックを成功させたい、そのために万全なサポートをしていきたい、協力したいと思っている一人であります。ただ、しかしながら、やっぱり国会議員として、疑惑があったらそれが本当に白なのか黒なのか真相究明をして、それを明らかにするのもまた国会議員の仕事だと思っているんですね。

そういう観点から見た場合、今回の招致委員会の竹田会長の行動なり、あるいは招致委員会が結んだコンサル契約なり、それに対する説明責任なり、これ全く不十分だと思います。これでは、国民もやっぱり本当にやばいんじゃないのと思う人多いと思いますし、国際社会はかなり疑っていますからね。

現にブラジルなんかでは、同じようなパターンでみんな有罪判決出ているんです。これで日本政府が何も動かないで、タンさんがとうとうしゃべっちゃったと、今シンガポールでもう捕まっていますからね、一週間で出ましたけど。もう国際私法として、シンガポールもブラジルもフランスも、これはかなり黒に近いといってみんな捜査が入っているんですよ。それで黒だと認定されたら、私は日本政府もちょっと恥かと思うんですね。

ですから、この問題については、厳しいですけどもきちっと対応していただくことをお願いして、私の質問を終わります。

ありがとうございました。